

東海道五十三次を往く

第33回

江戸から数えて40番目となる鳴海宿。間の宿の有松宿と共にミスモ編集部が巡りました。

なるみ 鳴海宿

江戸の商家群が残る 有松・鳴海絞りの里



知立宿を後に境川を渡ると三河国からいよいよ尾張国に入る。東海道の次の宿場は鳴海宿だが、知立宿と鳴海宿の間に「間の宿（あいのしゆく）」の有松宿がある。歌川広重が描いた「鳴海「名物有松絞」」は実はこの有松宿の光景だ。この有松宿は、広重が描いた時代のままかと思まがうほど昔のままの町並みが残っている。虫籠窓やなまこ壁のある建物や卯建の上がる家などが軒を連ね、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。そんな有松宿と比べて鳴海宿にはあまり昔の面影を伝えるものが残っていないが、宿場の中心地だったあたりに屋根付きの高札場が復元されている。また、旧東海道沿いにある和菓子老舗、菊屋茂富の店の前には道がクランク状に曲がる枡形（曲尺之手）が残っていて往時を偲ばせる。



有松・鳴海絞り

全国の絞り染め生産の9割以上を占める有松絞は、約400年前に名古屋城の築城に集められた九州の豊後の工事人たちが身につけていた絞り染めに着目した竹田庄九郎が地元の木綿を使って作り出したのが始まりで、その後街道土産として旅人たちの人気を集めた。有松鳴海絞会館では、有松絞の歴史資料や実物見本を展示、販売もしている。



復元高札場



1396年創建の古刹 瑞泉寺



桶狭間古戦場

有松の手前に若き織田信長が少数の軍勢で大軍勢の今川義元軍を打ち破った歴史的な戦いとして知られる桶狭間の戦いの舞台となった桶狭間古戦場跡がある。現在は史跡公園として整備され、今川義元の墓と言われる史跡もある。



本陣跡付近の街並み



菊屋茂富の店の前は枡形になっている。



おみやげ

利休まんじゅう
1857(安政4)年創業の老舗の和菓子屋菊屋茂富で売られている「利休まんじゅう」は、こし餡に黒糖の羊羹をコーティングした黒く光った丸いまんじゅう。10月～4月販売。

御菓子司 菊屋茂富
愛知県名古屋市長区鳴海町相原町 28
☎ 052-621-0130
営業 9時～19時 火曜

